TÜVRheinland®
Precisely Right.

「理想科学 環境経営報告書 2018」第三者審査報告書

理想科学工業 株式会社
代表取締役社長　羽山　明　殿

2018年7月18日
テュフ ラインランド ジャパン 株式会社
代表取締役社長　トビアス・シュヴァインフルター

1. 審査の範囲及び目的並びに対象

テュフ ラインランド ジャパン 株式会社（以下当審査機関という）は、理想科学工業 株式会社(以下、組織と言う)が作成した『 理想科学 環境経営報告書 2018 』及び『 WEB掲載の環境データ 』に関して、

- 環境報告及び環境パフォーマンス、環境会計に関する情報にて、算出、集計方法の合理性と数値の信頼性及び、記載内容の妥当性
- 環境報告にて、重要な情報が洩れなく開示されているか

について、独立した第三者機関の立場から審査を行いました。審査目的は、その結果を報告し結論を述べることです。

2. 審査の手続き

当審査機関は、組織との合意に基づき、次の手続きで審査を実施致しました。

(1) 環境マネジメントの概要 ： 組織の状況、運用の概況及び収集されるデータ項目を把握し、検討致しました。
(2) データの収集・集計および報告の過程 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、作成の基礎となる情報・データの収集過程・集計方法を検討致しました。
(3) データの正確性 ： 環境パフォーマンス指標及び環境会計指標について、サンプリングしたデータを根拠資料と照合し、整合性を確認した上で、データ・計算の正確性を検討致しました。
(4) 記載情報の正確性、重要な情報の網羅性 ：作成責任者への質問、現場視察による状況把握、内部資料および外部資料との比較検討を実施し、報告書に記載されている記述情報について、正確性及び重要な情報が網羅されているかについて、確認致しました。

当審査機関の報告書審査プロセスは、当社ISO 9001、ISO 14001の現地監査、組織の報告書ドラフトの文書審査、組織の現地での報告書審査 、是正処置要求項目の是正が実施された組織の報告書最終稿の確認、により構成されます。審査のプロセス及び、審査の過程に於ける是正処置要求と組織の対応の概要及び結果報告の詳細は精査され、ISOの審査登録の状況については当審査機関のホームページ（ http://www.tuv.com/ ）に公開されています。

以上の手続きの結果、当社は結論を表明するための合理的な基礎を得たと判断しています。
なお、審査基準として、環境省 環境報告ガイドライン、GRIが発行するレポート、環境省 環境報告書作成基準、を参考としていますが、ガイドラインへの準拠性を認証するものではありません。

本報告書現地審査訪問拠点: 筑波事業所

ISO 9001:2015及びISO 14001:2015における現地審査訪問拠点:

本社、理想開発センター、筑波事業所、霞ヶ浦事業所、宇部事業所、芝千歳事業所、新橋事業所、沖縄コンタクトセンター

3. 結論

以上の手続きを計画通りに実施し、審査の過程で要求した是正処置が適切に実施されることを約束された結果、当審査機関は、『 理想科学 環境経営報告書 2018 』及び『 WEB 掲載の環境データ 』が、一般に公正妥当と認められる環境報告書作成ガイドラインの一般的報告原則に照らして、正確に数値算出されていると結論致します。

4. 意見

【 総評 】

昨年の第三者審査が対象とした「環境経営報告書 2017」が、環境省と一般財団法人地球・人間環境フォーラムの共催による第 21 回環境コミュニケーション大賞の環境報告書部門において優良賞を 2018 年 2 月に受賞されました。選考委員会の講評では、「開発、製造、調達、営業サービス活動などの事業活動全般を通じて環境負荷の全体像を明らかにするとともに、事業活動ごとに豊富な環境データ等を時系列で詳細に提供している」とされ、誠実に環境経営情報を継続してきたことを評価されたものと考えます。今後は、社会的に開示が期待される新たなトピックスを採り入れつつ、より一層に環境経営情報を充実されることを期待します。

【 環境マネジメント関連 】

今回の報告書で、優れている点及び望まれる点の主なものを述べます。優れている点は今までに増して維持されることを、望まれる点は今後に向けてさらに継続的改善を期待しています。

優れている点：

- 環境情報開示の基礎となるデータの集計プロセスが正確に運営され、完成度が高まっています。ご尽力を高く評価します。
- 2017 年度の環境目標はすべて達成しています。
- 環境負荷は年々変動します。増減理由に関して、適宜丁寧に分析をされている姿勢は評価に値します。

望まれる点：

- スコープ 1（事業者自らの段階）からスコープ 3（お客様の段階）へ視点を転換していくことが一層求められています。使い勝手の向上、インクの環境配慮充実などへよりスポットライトを当てることが肝要でしょう。
- WEB で詳細なデータを図表 1～29 まで開示しています。経年変化を継続的に見守ってきた意義深い面もありますが、良いタイミングをとらえてより時宜を得たコンテンツへの差し替えも検討することが望まれます。

【 社会、ユーザーとの接点に関する取り組み 】

特集として、教育現場の多様なニーズに応える取り組み、純正インクを用いることで実現する製品性能と環境性能の両立、について触れています。重要な顧客である教育現場との接点を掘り下げ、製品性能だけでなく、教育現場におけるユーザービリティ（有効さ、効率、満足度）を向上させることを目指した取り組みを取り上げたことを評価します。また、純正インクに代表される消耗品のサプライ事業についてユーザービリティの視点で開示した姿勢も評価します。特に、米ぬか油を原料とするライスインクが黒 1 色から基本色全 22 色に拡大し、消耗品において選択肢が増えたことは喜ばしいことです。ユーザーが環境配慮を進める際の選択肢であり続けるためにも、環境に配慮した開発設計を理解しやすく開示することを継続してください。

【 環境会計関連 】

環境会計情報の集計プロセスを有効に維持し、環境経営の継続的な改善に有益な影響を与えていることを評価します。環境パフォーマンスと貨幣情報を対比する環境会計の原理を応用し、環境配慮の経営戦略を支える環境会計システムに継続的に改善されることを期待します。

以　上